

「読む力」を育成する指導の工夫

－単元を貫く言語活動を通して－

1. 設定理由

昨今の各種学力調査において、思考力・判断力・表現力等を問う読解問題や記述式問題に課題が見られ、読解力で成績分布が拡大している。目的に応じて適切な本や文章等を読んで解釈し、自分の考えをもつことができるように指導を行うことが重要である。

単元を貫く言語活動を軸に据え、授業の中で「読む力」を鍛えることにより、わかる喜びを味わわせ学習意欲の高まりを実感させることができる。本校の学校教育目標「心豊かで向上心に富む竟成っ子の育成」を踏まえ、目指す児童像『本気で学習に取り組む子』を具現化する上で有効であると考えた。

本校の児童は、明るく素直で元気に学校生活を送っているが、学習面では個人差が大きく、教科の枠を超えて内容を正しく読み取る力に弱さが見られる。昨年度の千葉県標準学力検査の国語科の結果をみると、叙述を根拠とする読みや、目的に応じて文章の趣旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながら読んだりすることに課題が見られた。

以上のことから、単元を貫く効果的な言語活動の設定や指導の工夫を通して、「読む力」を育成していきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

系統を踏まえた段階的な指導と、単元でつけたい力を育成するために単元を貫く適切な言語活動を選定した指導過程を工夫すれば、「読む力」が育つであろう。

3. 研究内容

- (1) 国語科・読むことに関する理論研修
- (2) 言語活動を軸に据えた実践的な授業研究
- (3) 学習指導の工夫（見通し学習、振り返り学習）
- (4) 読書活動の充実を含めた学習を支える環境整備

4. 結 論

- 単元で身に付けさせたい力を吟味し、有効な言語活動を設定することにより、児童の読む力を育てることができつつある。
- 読書環境を整備し、活動の充実を図ることで、全校で読書への意欲が高まり、進んで本に親しむ児童が増えてきている。

1 研究テーマ

「読む力」を育成する指導の工夫

— 単元を貫く言語活動を通して —

2 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種調査から、思考力・判断力・表現力等を問う読解問題や記述式問題に課題が見られる。読解力で成績分布差が拡大するほどである。その改善策として、課題に応じた必要な文章や資料を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用して内容を読み取り、相互に深めたりまとめたりしながら解決していく能力を育成することが重要となる。

これらのことから、児童が目的に応じて適切な本や文章等を読んで解釈し、自分の考えをもつことができるように指導を行うことが必要である。

(2) 学校教育目標から

本校では、「心豊かで向上心に富む児童の育成」を学校教育目標とし、目指す児童像として『本気で学習に取り組む子』をあげている。単元を貫く言語活動を軸に据え、授業の中で「読む力」を鍛えることにより、わかる喜びを味わわせ学習意欲の高まりを実感させることができる。『本気で学習に取り組む子』を具現化する上で有効であると考えられる。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、明るく素直で、元気に学校生活を送っている。学習面では個人差が大きく、教科の枠を超えて内容を正しく読み取る力に弱さが見られる。昨年度の千葉県標準学力検査の国語科の結果をみると、叙述を根拠とする読みや、目的に応じて文章の要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながら読んだりすることに課題が見られた。学級の実態を踏まえ、授業における言語活動を充実させる手立てを講じていくことが必要である。

以上のことから、単元を貫く効果的な言語活動の設定や指導の工夫を通して、「読む力」を育成していきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい

「読む力」を育成するために、指導すべき内容を踏まえ、単元構成に合わせた言語活動の有効な手立て及び指導の工夫のあり方を、授業実践を通して明らかにする。

4 研究仮説

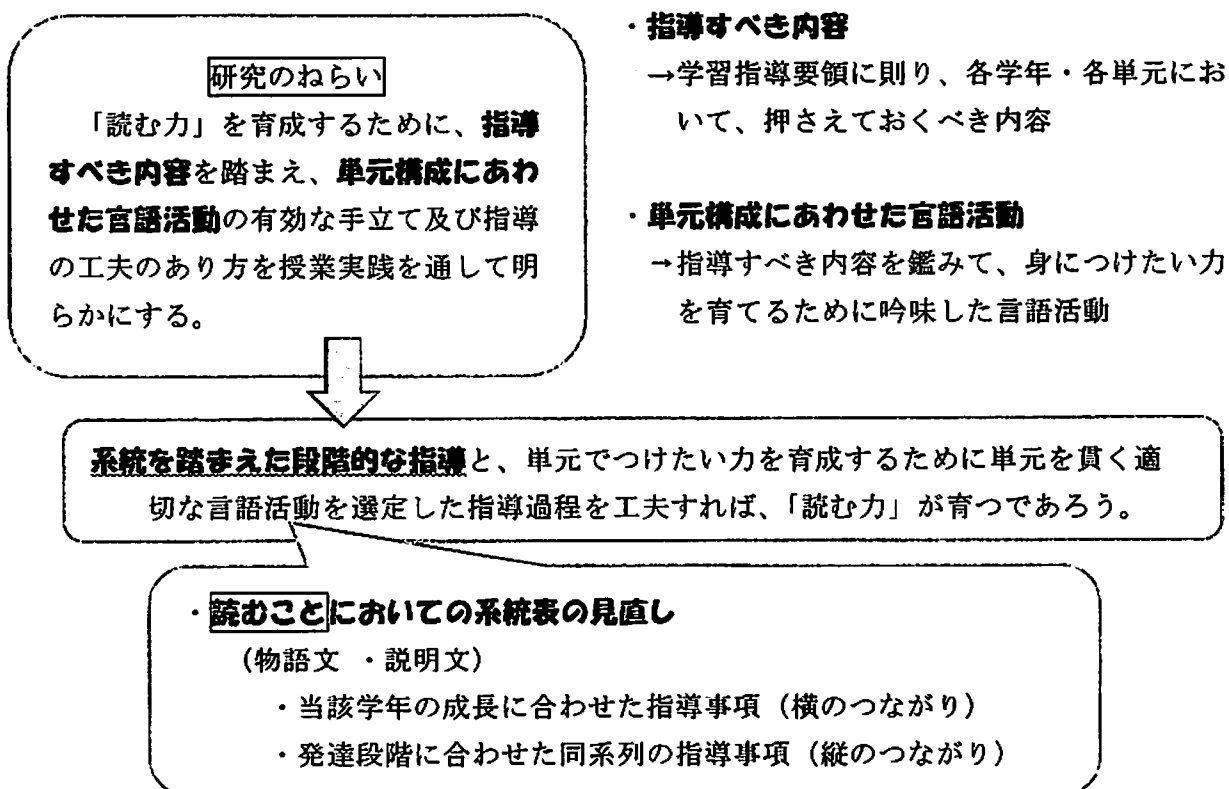
系統を踏まえた段階的な指導と、単元でつきたい力を育成するために単元を貫く適切な言語活動を選定した指導過程を工夫すれば、「読む力」が育つであろう。

5 研究内容

- (1) 国語科・読むことに関する理論研修
- (2) 言語活動を軸に据えた実践的な授業研究
- (3) 学習指導の工夫（見通し学習、振り返り学習）
- (4) 読書活動の充実を含めた学習を支える環境整備

6 研究の実際

- (1) 国語科・読むことに関する理論研修



- (2) 言語活動を軸に据えた実践的な授業研究

実践例 1（第 1 学年）

ア 単元名 たのしくよんで、本をしょうかいしよう「りすのわすれもの」

イ 単元を貫く言語活動とその特徴

「お気に入りの一冊の大好きなところふきだしをつけて紹介しよう！」

本教材文は、今まで学習したお話の中で最も長く、会話文の中に会話が入っていたり時が前後したりするため、面白さもある反面、理解するのに個人差が見られると思われる。そこで、挿絵を手がかりにさんたやたろすけさんの言動を整理するとともに、場面の様子から、さんたやたろすけさんになったつもりで想像を広げ、思いや考えをふきだしに書いていく。友達と紹介し合うことで、お互いに考えたことを学び合いながら、お話を読む力が深まるであろう。さらに、動物が出てくるお話の並行読書を通し、大好きな場面を選びその場面の登場人物になったつもりでふきだしに書き、お気に入りの一冊を紹介していく。従って、「楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」(C読むことカ)を実現するのにふさわしい学習活動であると考えられる。

ウ 指導観

(ア) 正確に読み取る力を身に付けさせる指導の工夫

- ・どの言葉から場面の様子や登場人物の気持ちがわかるのか、色分けの付箋を付けたり、表情マークを描かせることにより、本文中の言葉を手掛かりに読み取らせるようにした。
- ・ペアやグループでの吹き出しの交流を通し、より正確な読み取りができるようにした。

(イ) 話の全体を見通せるための工夫

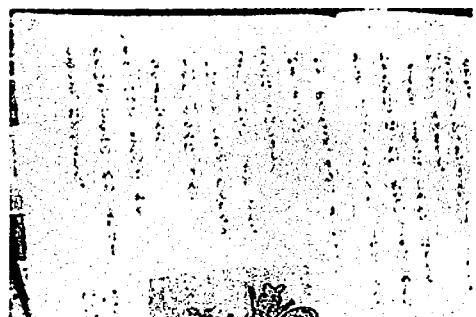
- ・ワークシートを工夫することにより、物語の構成及びさんたやたろすけさんの主な言動を整理できるようにした。
- ・会話文を役割読みさせたり、気持ちを吹き出しに書かせたりするなどして、さんたやたろすけさんの気持ちを想像できるようにした。

エ 本時の指導（5／10時間目）

(ア) 目標

- くるみの芽が出て嬉しいさんたの気持ちを想像しようとする 【関心・意欲・態度】
- ◎くるみの芽を見つけて踊っているさんたの気持ちを読み取り、吹き出しに書くことができる。 【読むこと】

(イ) 展開

学習内容と学習活動	児童の表れ
1 前時までの学習内容を振り返る。	・お話の流れを振り返り、たろすけさんとさんたの言葉を確認した。
2 学習課題をつかむ。	・学習計画表により、本時の学習課題の把握が容易であった。
芽を見つけたさんたの気持ちを、ふきだしに書こう。	
3 (四)の場面のさんたの気持ちを想像しながら音読する。	・付箋だと台詞の範囲がわかりにくいため色別に囲み、わかりやすくした。  ・さんたが言った言葉を色で囲んだことを手がかりに様子を確かめることができた。

4 芽を見つけたさんの気持ちが想像できるところにラインをひき、表情マークを描く。

- ・わあ、すごい。→ 😊
- ・ぼく、知らないうちにこんなことをしちゃったんだなあ。→ 😳

5 芽の周りを踊るさんの気持ちを想像して、ふきだしに書く。

○ さんの気持ちを読み取り、想像しながらふきだしに書いている。

【読】(ふきだし、発言)

- ・個別に支援し、挿絵を見ながら聞き取りを行う。

6 書いたふきだしを交流する。

7 本時のまとめをする。

- ・ワークシートに振り返りを書く。

8 次時の予告を聞く。

- ・さんたになったつもりで、踊っているときに発した言葉を書くことができた。

- ・「忘れること」が悪いことであるという固定観念にとらわれていた児童の姿があった。全体に返し、読みを深める手立てを講じることが必要であった。



- ・隣の友達の話聞き、違いや同じところを見つけることができた。



お気に入りの一冊の大好きなところふきだしをつけて紹介しよう！



お気に入りの本の、
大好きなところは…



実践例 2（第 2 学年）

ア 単元名 くりかえしのある話を作ろう「きつねのおきやくさま」

イ 単元を貫く言語活動とその特徴

「くりかえしのある話を作ろう」

繰り返しの面白さを盛り込んだオリジナルのお話を作る活動に取り組む。音読したり、ペープサートを使って気持ちを代弁したりすることで、繰り返される表現や場面構成に気付くことができる。従って、本単元でねらう「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」（C 読むことウ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

ウ 指導観（仮説との関わり）

（ア）ペープサートによる表現活動

登場人物の行動を中心に、想像を広げながらきつねの気持ちを代弁することで、きつねの心情に迫らせた。



ぜったいみんなを守るぞ！

（イ）音読記号の工夫

音読記号を使って登場人物の行動や気持ちになり、強弱をつけた音読の工夫がしやすくなった。

エ 本時の指導（7 / 15 時間目）

（ア）目標

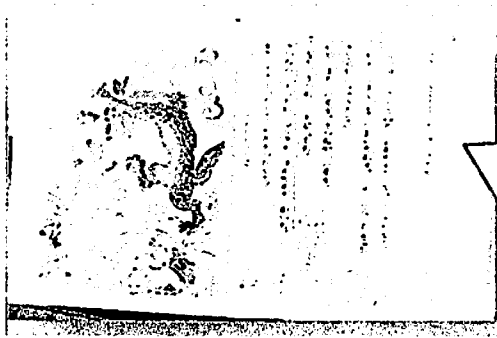
○繰り返しのある物語の面白さに気づき、興味をもとうとする。【関心・意欲・態度】

◎根拠になる表現をもとに、きつねの気持ちを想像することができる。【読むこと】

（イ）展開

学習内容と学習活動	児童の現れ
1 前時までの学習を振り返る。	・学習計画表により、本時の学習課題を容易に把握できた。
2 学習課題を確認する。 おおかみとたたかっているときの、きつねの気持ちをそうぞうしよう。	
3. きつねの気持ちを想像しながら、P.72 3 行目～最後までを音読する。	・音読練習の積み重ねで、本文を覚えるほど読み込んでいる姿も見られた。

- 4 根拠となる言葉を捉えて、きつねの気持ちを想像する。



- 根拠になる表現をもとにきつねの気持ちや考えを読み取っている。

【読】(教科書、観察)

- ・きつねの気持ちや考えが想像できない児童には、友達との交流を参考にするよう助言する。

- ・本文で、きつねの行動や様子がわかるところに線を引き、気持ちを想像して書き込んでいた。

- ・いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。
→ひよこたちに近づくな！
- ・言うなり、きつねはとびだした。
→ひよこたちを助けるぞ。
- ・ゆうきがりんりんとわいた。
→負けるもんか。
- ・たたかったとも、たたかったとも
→勝つまで諦めないぞ！
- ・じつに、じつにいさましかった
→すごくかっこよかったよ。
- ・はずかしそうに、わらってしんだ。
→負けちゃったな。ごめんな。

- 5 ペープサートを動かしながら、想像したきつねの気持ちを交流する。

- ・ぜったいに負けないぞ。
→おおかみにとびかかるみたいに、大きく動かしてみようかな。

- 6 「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」の言葉は誰が言ったのか確認する。

- ・勇気を出して戦おうとする決意の言葉であることを確認する。

- ・おおかみ
→一番大きくて美味しそうだな。
- ・きつね
→まて、ひよこたちには手を出すな！

- ・おおかみの言葉と認識している児童が半数近くいたため、あえて結論を出さず、次時に読み深めることにした。

- 7 振り返りをする。

- ・きつねの気持ちを想像することができたか、振り返る。

- ・本文の根拠となる表現をもとに、きつねの気持ちを想像できたか、学習計画表で振り返った。

- 8 次時の学習内容を確認する。

くりかえしのあるお話を作ろう

- 主人公の設定やどんな繰り返しがあるのかを考えてメモ書きするところから始めた。作文が苦手な児童も、「これなら書ける！」と意欲的であった。

(3) 学習指導の工夫(見通し学習、振り返り学習)

○ わらいに合う学習活動の設定

- ・ 学習計画表
- ・ ゴールからの授業作り

○ 教師の自作モデル

- ・ ゴールのイメージ、意欲化

○ 複数教材、図書の利用

- ・ 考えを比較する、深める、まとめる、記述する など
- ・ 図書室や地域図書館の活用
- ・ 地域教材や社会人などの活用

学習計画表は、学習中常に活用し、児童が見通し・振り返りをするのに大いに役立った。

(4) 読書活動の充実を含めた学習を支える環境整備

ア 朝読書の時間の確保

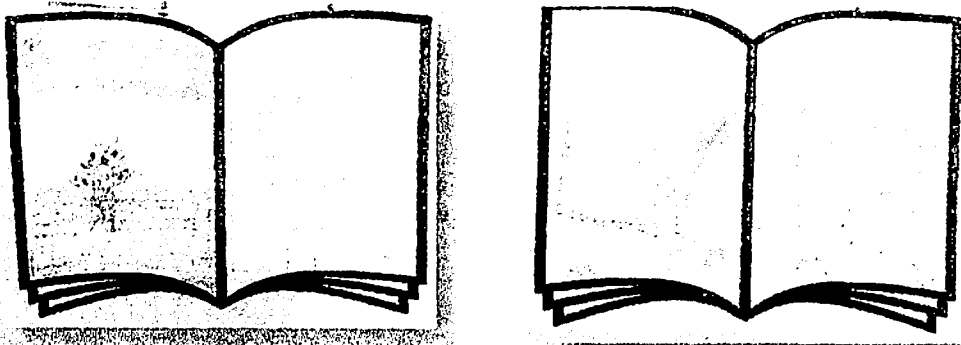
8:00～8:10の間、全学年で朝の読書タイムを設定している。

昨年度(1年生)読み聞かせについて

→前期は原則毎日、後期は週2～3回

→本の選定：教室の絵本を中心に教師が選ぶ。

日直が選んだ本を、翌日に読み聞かせる。



おすすめの1冊 「この本、おもしろかったんだ。読んで欲しいな。」

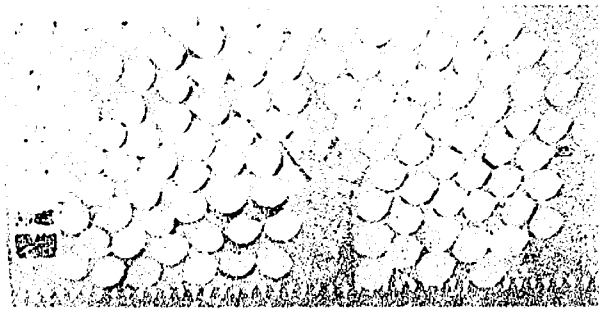
イ 全教職員による読み聞かせ

校長先生・教頭先生にも入っていただき、職員を低・中・高学年の3グループに分け、月1回の読み聞かせ会を実施している。担任以外の教員の読み聞かせは、子どもたちにとって、新鮮で好評だった。本年度は、テーマを決めて本を選定し読み聞かせを行っている。



ウ 「読書の木」

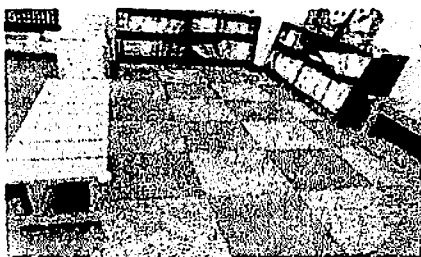
読み聞かせの後、その本の感想を葉の形の紙に綴り、全校児童の感想が昇降口に掲示してある読書の木に寄せられる。同じ本でも感想が違っていたり、学年を超えた友達の感想を読むことができたりするため、楽しみながら書く姿が多く見られる。



全校児童の感想が集まった「読書の木」

エ 図書室の改装

昨年度、国語主任が中心になり、図書室の一角をフリースペースへと改装を行った。くつろいで読むことができる空間が、子どもたちのお気に入りとなった。



オ 図書委員による「おすすめの本」の紹介

低・中・高学年用に分担し、給食時に放送、昇降口に展示後、図書室へ。

7 成果と課題

- 単元構成に合わせた言語活動を組み、ゴールを明確にしたことで、意欲的に学ぶ姿勢が育ち、すすんで学習に取り組む児童の姿が多く見られた。また、本時の授業の進め方を提示しておくことにより、見通しをもって学習することができた。
- 第三次で完成した作品（くりかえしのあるお話、お話玉手箱等）を見ると、言語活動を軸に据えて読み進めてきた結果、普段は整った文を書きにくい児童も、登場人物の気持ちや場面の様子を書くことができていた。
- ペアやグループでの交流で、自分にはない反応を知ることができ、読み取りの幅が広がった児童もいた。
- 学年により、これまでの学習で身に付けてきた「ウェビング」や「性格を表す言葉」、「根拠から理由や意見を考える」などを、実践できた児童が多くいた。
- △ 本当の意味での読む力が定着しているかどうかについては、今後初見の文章を用いた考察を通し、丁寧に取り組んでいく必要がある。

資料編

資料① <目指す子ども像>

	低学年	中学年	高学年
2016 年度	・ 順序を表す言葉を見つけることができる。 ・ 場面の変化や中心人物の行動の変化を見つけることができる。	・ 中心となる語や文を見つけることができる。 ・ 場面の移り変わり、登場人物の性格や気持ちを表す言葉を見つけることができる。	・ 文章の要旨をとらえることができる。 ・ 登場人物相互の関係から、行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている部分を見つけることができる。
2017 年度 ★	・ 順序を表す言葉を正しく使うことができる。 ・ 大事な言葉や文から、登場人物や場面の様子を想像することができる。	・ 中心となる語や文を使って要点をまとめたり、事実と意見を区別したりできる。 ・ 地の文や行動、会話などから、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを想像することができる。	・ 求められている分量や表現の仕方などに合わせて要旨をまとめることができる。 ・ 直接的、または暗示的に表現されている部分から、登場人物の内面にある深い心情も想像することができる。
2018 年度	・ 大事な言葉や文を書き抜いて、自分の思いや考えをもつことができる。	・ 自分の思いや考えと友達のそれとの違いに気付くことができる。	・ 文学的な本や文章、説明的な本や文章などを読んで、自分の考えをまとめることができる。

＜児童の発達段階における配慮事項例＞

【低学年】

- 主語と述語（例えば、性質、状態、関係など）を明確にして表現する。
- 比較の視点（例えば、大きさ、色、形、位置など）を明確にして表現する。
- 判断と理由の関係を明確にして表現する。
- 時系列（例えば、まず、次に、そして、など）で表現できる。
- 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。
- 書いた物を読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合う。
- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。

【中学年】

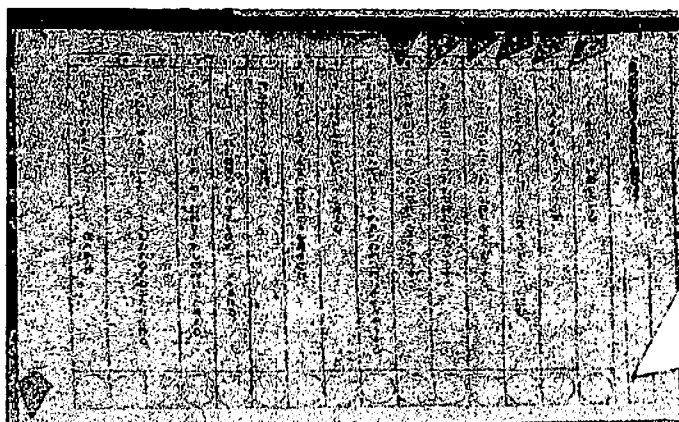
- 判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する。
- 条件文（例えば、「もし、○○○ならば、△△△である」）で表現する。
- 科学用語や概念を用いて表現する。
- 互いの考えの共通点や相違点を整理し、司会者や提案者などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。
- 書いた物を発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。

【高学年】

- 演繹法や帰納法などの論理を用いて表現する。
- 規則性やきまりなどを用いて表現する。
- 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。
- 書いた物を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。
- 本や文章などを読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

言語活動の充実に関する指導事例集より

資料② <学習計画表>



第2学年

「きつねのおきやくさま」

学習計画表

- ・単元中掲示
→きつねの折り紙で本時の場所確認
- ・下の○
→表情マークで振り返り

資料③ <「読むこと」系統表> *一部抜粋

・おおきな かぶ ・けんかした山 安藤 英紀 夫 文 (入門期 基本編) ★登場人物を選んで、朗読劇をしよう。					1年生
うみへのながいたび 今江 祥智 文 ○声に出して読む ★白くまになったつもりで、「お話し」をしよう。					
C(1)ウ					
〇とうじょう人物の様子を想像する ★くまの子になったつもりで日記を書こう	「えいっ」 三木 卓 文	きつねの あまん きみこ ○くりかえしの ある お話を読む ★くりかえしのあるお話を つくろう	わにのおじいさんのたからもの 川崎 洋 文 ○登場人物の考えをそうぞうする ★お話の続きを想像して書こう	2年生	
C(1)ウ					
白い花びら やえがし なおこ 文 ○場面に気をつける ★第五場面の物語を想像して書こう	C(1)ウ	のらねこ 三木 卓 文 ○登場人物のせいかくを考えたがら読む ★ねこが登場する物語を紹介しよう	わすれられないおくりもの スーザン・バーレイ 文・絵 ○題名を考える ★感想を入れながら、物語を紹介しよう	3年生	
C(1)ウ					
ぞろぞろ(落語) 三遊亭 円窓 文 ○「音読記号」を使って音読する ★落語を音読したり、えんじたりしよう	一つの花 今西 祐行 文 ○感想文の書き方(例) ★読んだ感想を書いて、友達に伝えよう	C(1)ウ・オ	C(1)ウ	4年生	
C(1)ウ					
C(1)ウ					
C(1)ウ・オ					
C(1)ア・ウ					
C(1)ウ					

資料④ <言語活動例>

活動名	難易度	特 徴	身に付けさせたい力
音読台本づくり	★	登場人物の気持ちや様子を表現するために音読の仕方を工夫する。	C(1)ウ
読み聞かせ	★	登場人物の気持ちや様子に合わせて読み方を工夫する。	C(1)イ
人形劇	★	登場人物の気持ちや様子に合わせて読み方を工夫する。	C(1)イ
音読発表会	★	登場人物の気持ちや様子に合わせて読み方を変化させる。	C(1)ア
音読劇	★	登場人物の気持ちや様子に合わせて読み方を変化させ、世界を表現する。	C(1)イ
語り	★★	登場人物の気持ちや様子に合わせて読み方を変化させ、世界を表現する。	C(1)ア
紙芝居(文学)	★	登場人物の気持ちや様子に合わせて読み方を工夫する。	C(1)イ
紙芝居(説明文)	★★	キーワードや要点を精査してから、せりふを考える。	C(1)エ
感想発表会	★	自分が感じたり考えたりしたことの根拠を明確にすることが大切。	C(1)ウ、エ
ブックトーク	★	自分の考えや根拠とともに、読みたいと思わせるような話し方が大切。	C(1)オ、カ
帯	★	内容を工夫することが大切。どんな観点で文章を書くのか。	C(1)エ
ポップ	★★	本の特徴や自分の考えを簡潔に表現する。一言あるいは一文。	C(1)エ
リーフレット	★	一枚の紙。内容を精査して書く。	C(1)イ、ウ、エ
パンフレット	★★	2枚以上の紙。冊子。内容、構成などを精査して書く。	C(1)イ、ウ、エ
紹介文	★	根拠を明確に、自分の感想や意見を文章にする。読みたいと思わせる。	C(1)エ、カ
推薦文	★★	アピール力が必要。根拠を明確に、自分の主張を文章にする。	C(1)エ、カ
図鑑	★	写真や絵などを使いながら、必要な情報を文章にしていく。	C(1)イ、エ、カ
記録文	★★★	観察・実験・研究・制作、見学・旅行、行事録、随筆・読書感想文など。	C(1)イ、エ、カ
新聞記事作り	★★	読者の関心を惹きつける工夫が大切。文の組み立て。字数制限。	C(1)イ、エ、カ
意見文	★★★	要旨をとらえ、自分の意見をはっきりさせて書く。	C(1)ウ、オ、カ

資料⑤ <各学年の取り組み>

【第2学年】

しゃしんをつかって、せつめいしよう 「さけが大きくなるまで」

○言語活動：「かるた大会をしよう」 ～〇〇が大きくなるまで～

○指導観

・大事な言葉に着目した読みの工夫

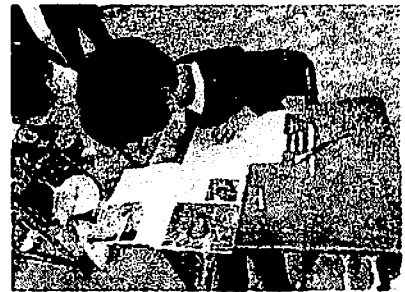
→時、場所、様子を表す言葉に付箋を貼り、時間的順序に着目させることで、さけの成長を順序よく読み取ることができるようにする。

・並行読書の工夫

→興味・関心をもった生き物の成長について、かるたの読み札を作ることができるようにする

・グループでの活動の工夫

→各々でカードを作成し、その後グループで時間・場所・ようすを表す言葉が書かれているのか確かめ合う。



【第3学年】

物語を読んで紹介しよう「のらねこ」

○言語活動：ねこが出てくる本を読んで、友達に紹介しよう！

—性格は、のらねこことになっているかな—

○指導観

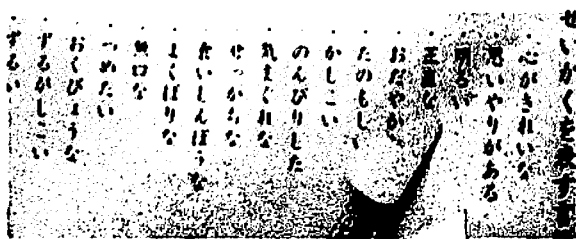
・読みを深めるための工夫

→並行読書を通し、両者の言動から気持ちをより深く広く想像できるようにする。

・話の全体を見通せるための工夫

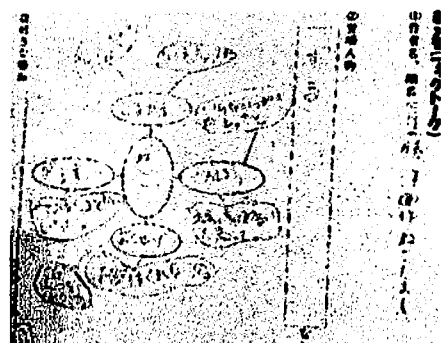
→ワークシートを工夫し、ウェビング形式で書きやすくする。

→本を紹介する際に、自分の生の言葉で伝える経験ができるようにする。



性格を表す言葉をまとめたもの。

→語彙を増やす工夫



紹介する本の主人公をウェビングでとらえている。

【第3学年】

物語のおもしろいところをしょうかいしよう「モチモチの木」

○言語活動：物語のおもしろいところを、おはなし玉手箱でしょうかいしよう！

○指導観

・振り返りやすくさせる指導の工夫

→直接、教科書に線を引かせたり書き込ませたりして、
気持ちを想像できるように する。

・言葉にこだわって読ませる工夫

→あらかじめ、見落としがちな単語をピックアップし、豊かな言語感覚を育めるように
する。



おはなし玉手箱

この物語のおもしろいところはね…。

【第4学年】

わかったことを説明しよう「花を見つける手がかり」

○言語活動：「もんしろちょうがよく集まる花について、説明文を書こう」

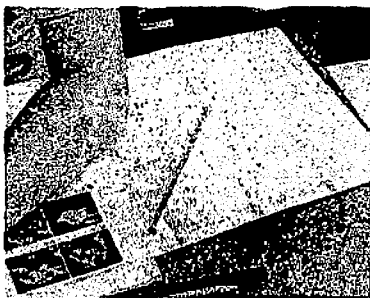
○指導観

・学習形態の工夫

→個人で考えをまとめた後、グループで意見交流をさせていった。個人でまとめた考えを持ち寄り、グループで活動することで、自分にはない考えや発想に触れ、学習がより深まった。

・効果的に読み取らせる工夫

→実験について、「ねらい・準備・方法・結果・結論」
に分けて、キーワードに線を引かせた。色分けさせることで内容が整理しやすかった。



「ねらい・準備・方法・結果・結論」の
キーワードを色分けした。

【第5学年】

新聞記事を書いて、言葉と事実について考えよう

「言葉と事実」

○ 言語活動：自分の思いが伝わる新聞記事を書こう

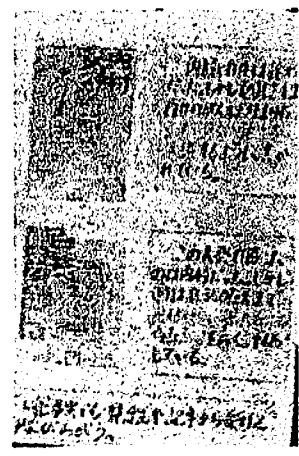
○ 指導観

・ 並行読書の工夫

→朝の読書の時間に、同じ話題の新聞記事を2つ読ませ、
立場によって記事から受ける印象が地味ことを感じ取
らせるようにする。

→感じ取った違いをワークシートに書き溜め、記事を
書く時に見返せるようにする。

・ 個からグループ、全体へと学習形態を変えていく工夫



【第6学年】

筆者の考えを読み、感想を書こう 「ぼくの世界、君の世界」

○言語活動：『心の世界』についての感想文を書こう

○指導観

・ 感想文を書かせるための工夫

→グループでの交流活動

→実体験カードを持ち寄り、グループで
出し合えるようにする。

・ 哲学の本に親しませたり、さまざまな物
事の見方に気付かせたりする工夫

→朝の読書の時間に、哲学の本を読み聞
かせ、本に親しめるようにする。



<中学生までに読んでおきたい哲学シリーズ>

あすなろ書房

松田哲夫：編

1. 愛のうらおもて

2. 悪のしくみ

3. うその楽しみ

4. おろか者たち

5. 自然のちから

6. 死をみつめて

7. 人間をみがく

8. はじける知恵